

■■■■■ 静岡総局 社会部記者 様

前略

突然の手紙と文書を郵送しまして申し訳ありません。私は、静岡市在住の杉村和高と言います。

まず、この手紙と 10 頁の資料をお送りした訳を説明します。私は、個人的な理由から、長年に亘り、河川上流中流の土砂流下と堆積を観察し考察してきました。研究の対象としたのは地元の安倍川水系や各地の水流でしたが、それら幾つもの水流を観察し考察することにより、近年に至って河川上流中流の問題のありかがおおよそ把握出来たと思えるようになりました。そして、その問題が単に個人的好奇心の範疇にとどまるものでは無く、治水問題と自然環境問題に関わる公共の重要な課題である事にも気付きました。また、それが海岸の砂浜の浸食問題に関連している事にも気が付きました。そこで、研究の成果をWEB上に掲載し、関係者の皆様にもお知らせして来しました。

そして先日、「第7回安倍川総合土砂管理計画フォローアップ作業部会」の委員の皆様の手紙をお送りしたところです。同封した資料は 11 人の委員の皆様にお送りした手紙と全く同じです

この組織は、名前の通り、安倍川で流下し堆積している土砂の問題について総合的に計画立案する会議であり、安倍川のみならず三保まで続く静岡海岸の回復についても計画実行している組織です。ところが、この会議は当初より 7 年も経過しているにも拘わらずあまり成果を得ていない状況です。安倍川の自然破壊は年ごとに酷くなるばかりで、洪水の可能性も年々増大しています。また、海岸の回復も容易には進んでいません。詳細は資料をお読み頂きたいと思います。

さて、記者の皆様は仕事の都合で県内各地を移動される機会も多いのではないのでしょうか。そのような折に各所での河川工事を目にする機会もあるかと思います。その時に、数年前と同じ個所や直ぐ近くで工事が行われている事に気付いた事はなかったのでしょうか。それらは、ほんの何年か前に建設した護岸工事を拡大したり強化したりの工事である事も多いのです。もちろん、それらは必要な工事で、国土強靱化推進のための工事です。でも、それ以外の意味もあるのです。

それらの河川工事は、モグラ叩きゲームのように次から次へと工事個所を拡大化させ、工事個所も新たな更新を行い続けなければならない性質を持っています。同時に、河川や河川周囲の自然環境を劣悪化させる性質ももっています。この、河川の至る場所での自然環境の悪化と河川の生物の多様性の喪失については記者の皆様も認識されている事でしょう。

では、何故それらの工事がそんな性質を持っているのでしょうか。それは、それ

らの工事が河川上流中流の土砂の流下と堆積の規則性を無視し破壊する工事方法であるからです。

この問題は現在だけでなく未来にも大きな影響を与えています。現在の工事方法は、工事の施工後数十年後かその前にそれらを必ず作り替えなければなりません。それは、土砂の堆積と規則性を無視しているからであり、コンクリートを使用しているからでもあり、避ける事は出来ません。実際に、それらの期間に至る前に多くの工事個所で更新の工事が行われている事も多いのです。

ですから、現在の工事方法を継続させるなら、今後、河川工事量が増大する事はあっても減少する可能性は少なく、自然環境の悪化も拡大し続けます。この事は記者の皆様のお子さんやお孫さんがそれらの工事のための税金を支払う必要があると言う事です。これを、江戸時代やその前からの河川工事（富士川の雁金堤や信玄の名前が付いた工事個所等）が現在でも有用で役立っている事と比べると全く異様であるとさえ言えます。既に人口が減少し始めている日本でそれらの費用を賄い続ける事は容易では無いでしょう。もちろん、それらの工事は継続して維持し続けなければ各地に水害をもたらすことになるのです。

詳細は、お送りした資料とWEB上の掲載をお読み頂き、各地の実際を観察してご判断下さるようお願い致します。

WEB上の掲載頁は、「河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える」です。
(<https://keiryuu.sakura.ne.jp/index.html>)

問題の全体を記述しているのは「河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える」の「まえがき」から「第7章」までですが、これは全体で200頁余ありますから最初にお読み頂くには少しの困難があるでしょう。

「砂防堰堤」と「コンクリート護岸」の現実とその改善方法」は最近の掲示で「砂防堰堤」と「コンクリート護岸」の問題に限り記述し、多数の写真を掲載しています。

なお、お送りした資料に記載の「第7回安倍川総合土砂管理計画フォローアップ作業部会」の資料は、「国土交通省静岡河川事務所」のHPに掲載されています。

以上、是非とも参考にして頂きたく資料とこの手紙をお送りしました。

敬具

2022年■月■日

■■■ ■■■■

■■■■■ ■■■■■■■■■■ ■■■■

杉村和高